

瀬戸熊理事長を再任



千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<http://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

「経営安定へ知恵結集」

新理事 草開、細川、米澤、縣、徳住氏 新監事 松尾氏

理事会・評議員会



瀬戸熊修 理事長

本学理事会が12月16日、東京ガーデンパレスで開催された。任期満了に伴う理事・監事と評議員の改選が行われ、新理事に草開千仁氏(株式会社ウエザーニューズ代表取締役社長)、細川珠生

氏(政治ジャーナリスト)、米澤明憲氏(本学人工知能・ソフトウェア技術研究センター所長)が選ばれた。また、新評議員には米田完氏(本学未来ロボティクス学科教授)、仲正裕氏(株式会社

新理事

草開 千仁氏 (株式会社ウエザーニューズ代表取締役社長)



細川 珠生氏 (政治ジャーナリスト)



縣 良二氏 (日本工業新聞社取締役会長)



米澤 明憲氏 (本学人工知能・ソフトウェア技術研究センター所長)



徳住 祥蔵氏 (本学前監事)



米田 完氏 (本学未来ロボティクス学科教授)



仲 正裕氏 (株式会社ミヤコシ執行役員)



松尾 肇氏 (本学前法人事務局長 兼財務部長)



本保元次郎氏 (本学機械サイエンス学科教授)



白川 恒平氏 (ちばぎんハートフル株式会社取締役)

ニュースガイド

- 2面 小宮学長を再任/28年度本学入試終わる/デザイン科学科卒業・学外展
- 3面 本木さん作品が木更津高専50周年ロゴに/飯塚さんダブル受賞/渡辺さん優秀賞/小池君が建材提案賞
- 4面 下吉君ROBO-ONE 4位/卒論発表会優秀賞に齋藤君、石田君/原主任研究員が優秀講演賞/青木研などロボット出前授業/庄司さんら優秀講演賞
- 5面 本学でテクサス開催/19クラブを表彰/定年退職者
- 6面 定年退職者

次いで1月18日、同会場で開催された理事会では、満場一致をもって理事長に瀬戸熊修・現理事長が再任された。また、松井孝典氏が新たに常務理事に選任されたほか、宮川博光・現常務理事が再任された。さらに新監事に松尾肇氏(本学前法人事務局長兼財務部長)が選任された。

2月8日に同会場で開催された理事会・評議員会では、任期満了に伴う評議員互選理事の選出が行われ、新理事に縣良二氏(日本工業新聞社取締役会長)、徳住祥蔵氏(本学前監事)が選出され、新評議員に白川恒平氏(ちばぎんハートフル株式

会社取締役)が選任された。再任にあたり、瀬戸熊理事長は「大学を取り巻く環境はますます厳しさを増している。継続的な大学経営の安定化を目指し、今後も教職員が協力して知恵を出し合い、この状況乗り越えていきたい。大学の社会的使命である、社会に向けて有為な人材を育成し革新的な学術研究を推進することと、もちろん、学生だけでなく地域の方々にも学ぶことの喜びを感じる教育を提供して、地域文化の知の拠点としての機能を果たし、社会の発展に大きく貢献したい」と抱負を語った。

自然保護で連携

本学と千葉県が協定

本学と千葉県は、連携して自然保護に関するさまざまな課題を解決するための協定を1月21日付で締結した。生命環境科学科(4月から先進工学部生命科学科)の村上和仁教授の研究室(分子生態工学研究室)が中心となり、来年度から具体的な活動をスタートさせる。

千葉県は平成20年12月に、県内の生物多様性に関する研究を行っている千葉大、東大など6大学と連携協定を結び、最先端の専門知識や技術の共同研究や人材交流などを行ってきた。今回、これに本学と千葉科学大が加わり、8大学が千葉県の

自然保護行政の推進に協力することになった。村上教授は「本学が担当するテーマはこれから検討・提案していくが、千葉県からは野生生物のモニタリングシステムの開発のような工業大学の特色を生かした技術開発はどうかといった話も、一例として出ている」と話している。

その他の連携大学は江戸川大▽東京海洋大▽東京情報大▽東邦大。



①新食堂棟。中庭へL字形開口部が回廊のように広がる
②1階が湾曲してせり出している新体育館。右隣が新学生寮

新食堂棟や体育館 完成間近 新習志野 30日に竣工式

新習志野キャンパス再開発に伴い昨夏から始まった新食堂棟と新体育館、新学生寮の建設工事がほぼ終了。各棟が全容を現し、3月30日の竣工式を待つばかりとなった。旧体育館の解体工事も着々と進み、残る新食堂前庭の整備を急

ピッチで進める予定だ。新習志野キャンパスの正門から臨む景色は一層開放感が増し、L字形の新食堂棟が大学の新しい顔となる。学生や教職員がいつでも気軽に集える新たなスペースに期待がかかる。

小宮学長も再任

理事会が実績評価

小宮一仁学長(54)の任期が今年6月28日に満了を迎えることから、本年度は2月8日に開いた理事会で次期学長の選出について審議し、小宮学長の再任を全会一致で決定した。任期は平成28年6月29日〜平成32年6月28日。

今回の学長選出は、昨年10月8日に制定された「千葉工業大学学長選出規程」によって初めて行われた。同規程第4条の2は「理事長は、学長の任期満了120日前まで又は学長が欠けたとき、遅滞なく学長候補者選考委員会を設置する」と定めている。また第3条で「学長の任期が満了するとき、理事会が学長の再任を決議した場合はこの限りでない」として、学長候補者選考委員会の設置を必要としないとしている。今回の理事会決定はこの第3条の定めに従って行われた。

今回の学長選出に先立って理事会は「次期学長に求める理事会の方針」として、「求める資質・能力」と「達成すべきミッション」を示した。「資質・能力」は「理事会の一員としての自覚と責任感を有し、全学的な教学マネジメントを適切に対応し遂行する能力を有すること」など5項目、「ミッション」は①建学の精神に基づいた多様な教育・研究活動②教育研究の質的転換と向上③国際社会で活躍できるグローバル人材の育成④地域社会と連携した知の拠点づくり等のための人材の育成——が掲げられている。

理事会は小宮学長のこれまでの大学・教育改革などの実績を高く評価し、理事会の方針にも合致するとして再任を決めた。



小宮 一仁 学長

「資質・能力」は「理事会の一員としての自覚と責任感を有し、全学的な教学マネジメントを適切に対応し遂行する能力を有すること」など5項目、「ミッション」は①建学の精神に基づいた多様な教育・研究活動②教育研究の質的転換と向上③国際社会で活躍できるグローバル人材の育成④地域社会と連携した知の拠点づくり等のための人材の育成——が掲げられている。

より高みへ努力 ご支援ご協力を

小宮学長

この度、理事会の全会一致をもって学長に再任され、身の引き締まる思いとともに、これまで改革の推進にご指導ご支援を賜った瀬戸熊修理事長はじめ理事の皆様、ご理解とご協力を賜った教職員の皆様深く感謝申し上げます。

千葉工大の現状を一言で表現すれば「非常に良い状態」にあると思えます。私が学長就任以来、重要課題として掲げてきた退学者・留学者の問題も、教職協働の取り組みの結果、大幅に改善されました。FD(フィードバック)によって「千葉工大の知名度が全国的にアップしてきたことが大きな原動力になっていきます。」

入学志願者数の増加も著しく、この春の一般入学試験志願者は過去最高の7万6495人となり、全国ベスト9位に入りました。理事長が推進されているブランド戦略の成功によって「千葉工大」の知名度が全国的にアップしてきたことが大きな原動力になっていきます。

4月から5学部17学科の新体制がスタートします。今後は情報科学部と社会システム科学部の改編を含む教育課程の見直し、大学院改革に着手願ひ致します。

「資質・能力」は「理事会の一員としての自覚と責任感を有し、全学的な教学マネジメントを適切に対応し遂行する能力を有すること」など5項目、「ミッション」は①建学の精神に基づいた多様な教育・研究活動②教育研究の質的転換と向上③国際社会で活躍できるグローバル人材の育成④地域社会と連携した知の拠点づくり等のための人材の育成——が掲げられている。

来場者に丁寧に対応する学生スタッフ(手前)



⑥こだわりのリーフレット

津田沼校舎7号館で開かれた卒業研究・制作展



悩み、挑んだ集大成

デザイン科学科 卒展 開く

と挑んだアイデア満載の作品が並ぶので、学内外の人々が毎年楽しみに待つ行事のひとつ。会場には多数の市民や学生・教職員らが訪れ、学生たちの集大成を丁寧に見て回った。

みせるキセキ… 秋葉原で学外展

デザイン科学科で学んだ成果を発表する「卒業研究・制作展」が2月5、6日の2日間、津田沼校舎7号館で開催された。

2月20、21日には「デザイン科学科活動報告展(学外展)」が秋葉原UDXギャラリーで開催された。同会場での開催は3回目。卒業制作の中から選りすぐられた作品と、演習授業、産学協同プロジェクトの成果が展示された。

テーマは「みせるキセキ」つながるミライ。展示を通じて活動の「軌跡・奇跡」を示す一方、出展者と来場者が「未来」へ向けて、ゆるやかに連係できる場を作りたいとの思いが込められた。

コンセプトに沿って1〜3年生の有志スタッフが会場設置。昨年の経験者もいてグラフィック班、レイアウト班に分かれ、展示方法では天吊りに挑戦したり、パネルやアンケートを製作したりと、前例のない企画を取り入れ、昨年とは一味違った会場となった。

レイアウト担当の1人・石井麻以さん(同学科2年)は「昨年の経験を生かして積極的に取り組むことができた。技術や事務的な作業が学べた。何より『思いやり』の心を大切にできたのが収穫。」

また、グラフィック担当・山口翔人君(同)は「新しいことへの挑戦は大変だったが、さまざまな困難をチーム全員で乗り越えることで、スタッフの絆が深くなった。今年のリーフレットは紙質にもこだわり、お土産としても自慢の品。貴重な経験ができました」と展示会を振り返った。



④天吊りを加えるなどレイアウトを工夫
⑤学外展最終日、みんなで記念に1枚

本学志願7万8192人

28年度入試 8年連続増

B日程入学試験が2月17、18日の2日間、また、大学入試センター利用入学試験(中期)が3月5日午前にC日程入学試験、同日午後2時開始のB日程入試の志願者は1万5860人(昨年度より6606人増)。大学入試センター利用入学試験(後期)には1629人(昨年度より138人増)が志願した。平成28年度の本学総志願者は7万8192人(昨年度より2万5592人増)で、過去最多を記録するとともに、8年連続で志願者数が増加した。

1万5860人(昨年度より6606人増)。大学入試センター利用入学試験(後期)には1629人(昨年度より138人増)が志願した。平成28年度の本学総志願者は7万8192人(昨年度より2万5592人増)で、過去最多を記録するとともに、8年連続で志願者数が増加した。

願者数は7万8192人(昨年度より2万5592人増)で、過去最多を記録するとともに、8年連続で志願者数が増加した。

本木さんの作品 採用

木更津高専 50周年記念ロゴに



木更津工業高等専門学校（木更津市・前野一夫校長）は平成29年度に創立50周年を迎えるのを機に記念ロゴマークを公募していたが、本学大学院生の本木礼夫さん（デザイン科学専攻博士前期課程2年・佐藤弘喜研究室）の作品が最優秀賞に選ばれ、採用が決まった。本木さんは2月4日、同校で前野校長から賞状を手渡された。

受賞ロゴ（左）は木更津市のシンボル木・椿に



最優秀賞に選ばれた本木君（右）。左は木更津工業高専の前野校長

テクノロジーの礎・六角ナットを組み合わせた作品。椿の花言葉は「誇り」で、学生には誇りを持って勉学に励み世界で活躍してほしい、また、中心に六角ナットを組み込み、基礎の大切さを心に刻んでほしいと願った。公募には60作品が応募。

他作品はアルファベットの「K」をモチーフにしたもの、左右非対称な作品が多かった。本木さんのマークは左右対称の円形。既存の同校校章が千葉県シンボル花・菜の花をモチーフにしており、関係性を、と木更津市の椿を選んだ。

構成色の一つ「濃い紫みの青」は同校のスクールカラー。前野校長に「力強く時代に流されない不変なイメージを感じた」といわれたという。

本木さんは「ロゴマークが採用されたのは初めてで、とてもうれしい。学校のイメージを印象づける重要なマークをデザインできたことを誇りに思います。マークはすべて使用されるので、（私も）受賞に恥じない作品作りに取り組みたい」と語った。

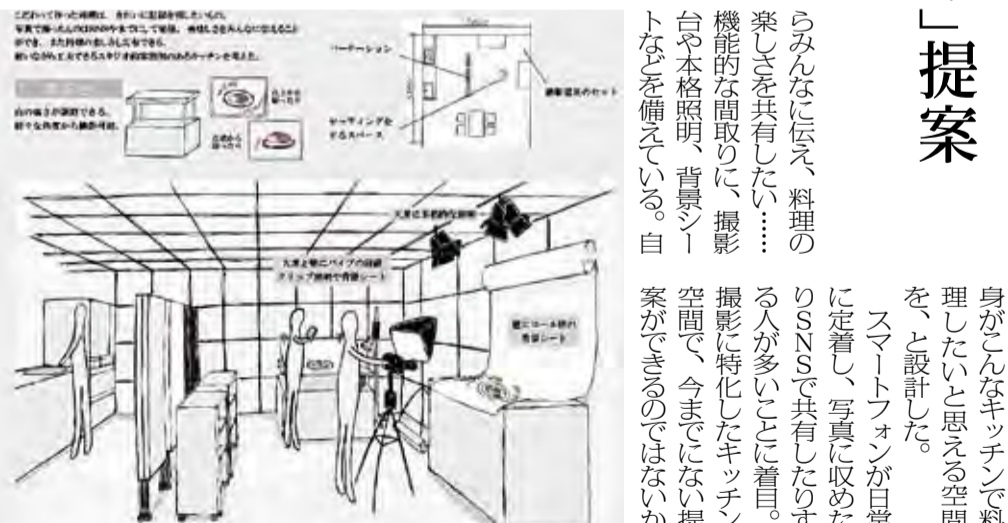
「キッチンスタジオ」提案

デザイン・渡辺さんが優秀賞



受賞した渡辺さんと作品スケッチの一部

「こんな人に、こんなキッチン伝えたい」をコンセプトにインテリア空間・地球に優しいキッチン空間▽暮らしが変わったキッチンリフォーム空間——の3テーマで、渡辺ひかりさん（デザイン科学科3年）が優秀賞7点の一つに選ばれた。表彰式は1月18日、東京都新宿区の京王プラザホテルで行われた。



「こんな人に、こんなキッチン伝えたい」をコンセプトにインテリア空間・地球に優しいキッチン空間▽暮らしが変わったキッチンリフォーム空間——の3テーマで、渡辺ひかりさん（デザイン科学科3年）が優秀賞7点の一つに選ばれた。表彰式は1月18日、東京都新宿区の京王プラザホテルで行われた。

身がこんなキッチンで料理したいと思える空間を、と設計した。スマートフォンが日常に定着し、写真に収めたりSNSで共有したりする人が多いことに着目。撮影に特化したキッチン空間で、今までにない提案ができるのではないかと考えたという。

渡辺さんは「自信がなかったのですが、選ばれてびっくりしました。私のアイデアや発想が審査員の方々に伝わり、評価して下さったのだと感じ、うれしかったです。まだまだ表現力不足を痛感したので、努力していきたいと思えます」と語った。

飯塚さん有終ダブル受賞

酸化亜鉛加工研究で最優秀講演賞・ポスター賞



大学院生命環境科学専攻の飯塚佳延さん（博士前期課程2年・橋本和明・柴田裕史研究室）は「酸化亜鉛加工研究で最優秀講演賞・ポスター賞」をダブル受賞した。今春卒業の飯塚さんは「国内・海外で多くの研究発表をしてきましたが、（今回は）2つの素晴らしい賞を同時受賞でき、驚きを感じています」と語った。

予定で有終の受賞となった。酸化亜鉛は白色顔料、日焼け止め（サンスクリーン剤）のほか止血、鎮痛効果から医薬品に用いられるなど、応用が広がる素材だ。同研究室では、酸化亜鉛粒子の調整時にアニオン界面活性剤（界面活性剤の一種）を添加することで、六角板状酸化亜鉛粒子が得られることを見出している。

研究では600試料以上を調製、その全結果をまとめる作業が大変だったという。発表の際は、専門外の人も理解できるように画像で工夫。ポスターでは、インパクトのある画像に興味を持った参加者たちと討論できた。

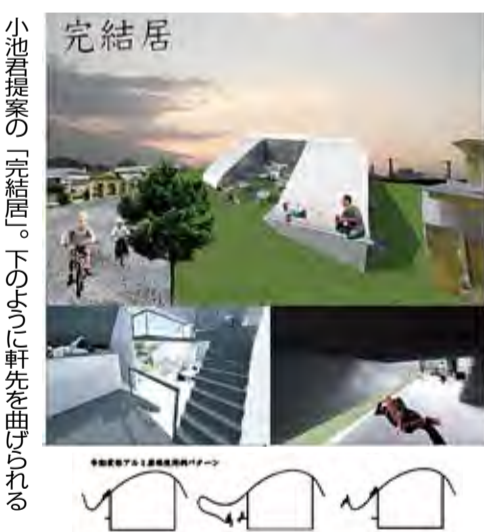
軒先が動く家 建材提案賞

小池君、学生デザインコンペで



受賞した小池君

建材大手の三協アルミ（本社・富山県高岡市）が募集した「第1回学生デザインコンペ」未来のとびらコンテスト（大学生版）で、建築都市環境学科の小池翔太君（2年）の提案「完結居」が建材提案賞2点の一つに選ばれた。表彰式は昨年12月18日、高岡市の三協アルミ社で行われた。コンペは「ずっといたくなる家」と「ずっといたくなる図書館」の2テーマを募集。小池君は「完結居」を提案した。



「家」部門に応募した。何でもできる現代社会は便利で使い勝手がいいが、敢えて制限した空間を發揮し豊かな発想で使いこなす方が、ずっといたくなる家になるのではないかと考えた。夫婦に子ども2人の4人家族を想定。開放的な空間を快適・情報・ビジネスの3テーマが循環し「完結」する家を、アルミ建材を使って示した。一番の特長は、軒先が変形する「斬新なアイデア」。ひさしの長いアルミ屋根を自由に變形でき、内側に大きく曲げてベンチにしたり、日よけにしたり。自ら快適な空間を創作できる。

講評で西沢立衛審査委員長（建築家・横浜国立大学大学院教授）は「軒先が動くという変わった提案だが、気候に合わせて軒が伸びたり縮んだりというのは、環境型住宅のイメージとしても示唆的に感じられた」。百田有希審査委員（建築家）は「太陽という動く相手に対して建築の方がかたちを変化させてみては？」という考え方にはとっさで「斬新なアイデア」が自由に変形する家は現実的にはまだ不可能ですが、アイデアを評価してもらえ、重ねてうれしい」と感想を語った。

下吉君 学生最高4位

第28回ROBO-ONEで、近藤科学賞も

二足歩行ロボットの格闘競技「第28回ROBO-ONE」(2月13、14日・茨城県つくば市のつくばカピオサイバードインアリーナ)で開催。二足歩行ロボット協会主催で、未来ロボティクス学科の下吉拓明君(3年・林原靖男研究室)が製作した「桔梗」が4位に入賞、デザインの美しさや完成度の高さを「近藤科学賞」も授与された。



下吉君と「桔梗」(下の奥のロボット)の対戦風景



大会には国内ロボットのほか韓国から数体が参戦、計112体が激闘を繰り広げた。

試合は攻撃(パンチ、キック、投げなど)で相手を倒し合い、先に3回ダウンさせた方が勝ち。レフェリーの判定基準が厳しくなったこともあり、例年上位に進出する学生チームがごとごとく敗退。そんな中で、下吉君の「桔梗」が準決勝進出を決めると、会場はどよめき、主催者側からも賞賛の声が上がった。

準決勝では常連の社会人エンジニアに阻まれ、社会人の1〜3位独占を許した。

下吉君は文化会の総合工学研究会で二足歩行ロボットの開発を続けながら、学内外のイベントや小中学校でのロボット操縦体験教室に参加し、工学技術の普及・教育を助

賞賛の声が上がった。ROBO-ONEは2002年から毎年、全国大会を年2回開催。参加者の技術向上とエンターテインメント性を高めるため、大会ごとにルールが改正されている。近藤科学賞はフジコン機器やロボット関連製品を製造販売する近藤科学(株)の賞。

実績があるモーターコントロール(モーターの制御信号を出す機器)と走行機構を活用し、ロボティクスで標準的に使われるROS(Robot Operating System)の

原主任研究員は「評価していた光栄です。今後は屋外の実環境での走行実験によりデータを収集し、より高度な自律走行の実現へ励みたい」とコメントしている。

原主任研究員 優秀講演賞

自律移動ロボットのシステム設計で

未来ロボット技術研究センター(fuRo)の原祥亮主任研究員が第16回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(昨年12月14〜16日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開催)で「電動車両モーターコントローラのROS対応と自律走行に向けたシステム設計」を発表し、優秀講演賞を受賞した。



原主任研究員

発表内容は、自律移動ロボットのシステム設計について。原主任研究員らは、ロボットがさまざまな歩行者空間で自律走行できるように、高トルク

で走破性能が高い移動ロボットを開発。自律走行の実証実験「つくばチャレンジ」では、常に上位の結果を残している。今回は、産業レベルで

手嶋教授の研究室で、3Dプリンターに関する研究が行われており、今年度は庄司さんら2人の学生が国立障害者

からロボットプログラミ

ング授業を開始した。

青木准教授の出前授業はこのキックオフイベントとして町側から要請さ

れたもの。同研究室の全方向移動ロボットやボール状の歩行ロボットなど4台と、米田完教授の研究室が開発した歩行ロボットなど3

台を持参した。

授業には青木研4人・米田研3人の学生が参加。子どもたちを3グループに分けてそれぞれ45分ずつ行い、子どもたちは学生が動かす4足や6足の歩行ロボットに乗ったり移動ロボットの思いもかけない動きに歓声を上げたりして初めてのロボット体験を楽しんでいた。

一宮小学校で行われた授業の1回目は、一宮町の玉川孫一郎町長や町田義昭教育長ら町と教育委員会の幹部も訪れて、授業の様子を見守った。

玉川町長は「この出前授業を機に、千葉工大と

もっと密接な関係を築きたい」と話していた。

優秀賞に齋藤君、石田君

27年度 県内大学 卒論発表会

平成27年度・千葉県内大学卒業論文発表会(県情報サービス産業協会主催、千葉県・泉地域11校)が2月26日、幕張ワールドビジネスガーデン(千葉市美浜区)のマリブウエスト棟で開かれた。情報通信技術の活用に関する発表会で、学部卒業直前の本学学生・齋藤雄太君(電気電子情報工学科4年・宮田高道研究室)と石田一真君(プロジェクトマネジメント学科4年・竹本篤郎研究室)が卒業論文優秀賞を受賞した。2人の発表内容は次



齋藤 雄太君

「グラフベース変換を利用した色差画像符号化」

輝度と色差の相関を利用する既存のColorization符号化は、JPEG符号化法と比べ色差画像の符号化効率に優れる一方で、計算量が大きいという問題点がある。

石田 一真君

「アジャイル型開発におけるEVM導入に関する提案」

ICT(情報通信技術)のシステム開発は従



石田 一真君

て使われていたEVM(進捗状況把握管理手法の一つ)を、アジャイル型に対応できるようにする方法を提案。ICT開発をイテレーション(反復)単位で進捗管理し工事進行基準に対応できるように考察した。

小学校2校で ロボット出前授業

青木研・米田研 一宮町の活性化に一役

千葉工大のロボットに実際に触って、科学技術者になる夢を育てよう！青木岳史・未来ロボティクス学科准教授と学生たちが2月16日、千葉県一宮町で町立東浪見小学校と一宮小学校の6年生合わせて120人を対象に出前授業を行った。

町民の減少対策が課題の一宮町は、他地域からの子育て世代の移住などを促して定住人口を増やすための魅力ある町づくりの一環として、町立小2校に普通教室で文教七



ボール状ロボットの動きに興味津々



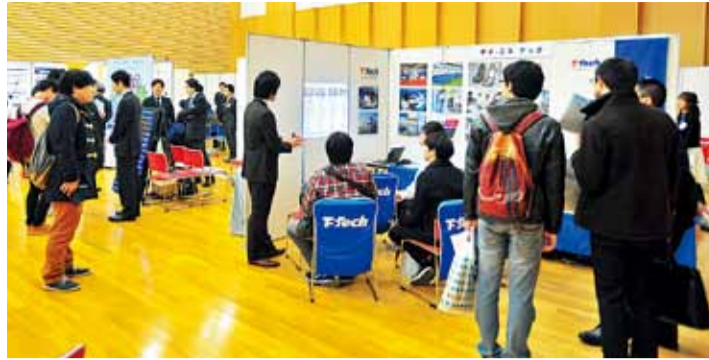
階段も上れるクロウラーロボットに乗る

段階も上れるクロウラーロボットに乗る。授業には青木研4人・米田研3人の学生が参加。子どもたちを3グループに分けてそれぞれ45分ずつ行い、子どもたちは学生が動かす4足や6足の歩行ロボットに乗ったり移動ロボットの思いもかけない動きに歓声を上げたりして初めてのロボット体験を楽しんでいた。

一宮小学校で行われた授業の1回目は、一宮町の玉川孫一郎町長や町田義昭教育長ら町と教育委員会の幹部も訪れて、授業の様子を見守った。

玉川町長は「この出前授業を機に、千葉工大と

もっと密接な関係を築きたい」と話していた。



最先端技術を体感して自身の進路に生かそう、と理工系学生のための技術展示会「Texas University (テクサス) i n C I T 2 0 1 6」(大
学職業指導研究会第四分
科会)が2月9日、本学津
田沼キャンパスで開かれ
た。写真。

君の技術、君の進路は？

■ 展示会テクサス 本学で開催

テクサスは学生の就職意識を高めるため2014年度から始められた。技術社会の動向を紹介し、授業や研究で学んだことが社会でどう生かせるのか、学生たちにヒントとなるよう期待するもの。昨年度は東京電機大、(株)ディスコ神楽坂スタジアムで開催した。

今年も本学2、4号館のエントランスや大教室、ラウンジなどを展示会場に、エリールプロダクト、トヨタテクノクラフト、日本ケミコン、パイオニア、横浜ゴムなど優良BtoB(企業間取引)企業を中心に約40社がブース出展。製品や技術力をアピールした。

4号館の教室ではシンポジウムを開催。企業採用担当者や外部講師が「モノづくりの楽しさを味わおう」と「基本が肝心！今日、身につくビジネスマナーを講演した。会場を訪れた学生たちは他大学の学生も含め約450人もモノづくりを誇る企業の製品や展示を見て回り、現役エンジニアから説明を聞いた。



上野 義雪 (デザイン科学科・教授)

基礎の上に応用あり
仕事に熱心で、いつも学生を温かく見守ってくれる。多くの卒業生が未だに先生を慕い、研究室は大にぎわい。



小林 幸雄 (電気電子情報工学科・教授)

モノづくりが大好き！学生と開発を競いあうことも。親分肌の楽しい先生は、泊まり込みで卒研指導も行った。



伊藤 晴雄 (電気電子情報工学科・教授)

よく読み、そして考える世界に飛びだせ、千葉工大時に優しく、しかし自分の信念は決して曲げない先生。厳しい研究姿勢の中にも、たくさん愛が感じられた。

教員・研究員(9人)

3月に定年を迎えられる教職員の皆さんを紹介いたします。いろいろな思い出や学生たちへのエールなど、温かい言葉を残してくださいました。(敬称略)



(6面へ続く)

19クラブを表彰 第36回祝勝・奨励会

表彰されたクラブは以下のとおり。
平成28年2月12日(金)16時～ 津田沼校舎3号館 学生食堂で

所属	クラブ名	主将・部長等	部員数	祝勝奨励事由	日付
体	空手道部	電情3 星野 寛治	13名	千葉県空手道選手権大会 男子団体形 優勝	4/19
				東都六工大空手道選手権大会 男子団体組手 優勝	6/21
				全日本理工科系大学空手道選手権大会 男子個人組手 (PM3 山本 峻也) 優勝 女子個人組手 (建都3 小林 京佳) 優勝 男子団体組手 優勝 女子個人組手 (建都3 小林 京佳) 優勝	11/22
	弓道部	電情2 藁輪 拓弥	23名	千葉県学生弓道選手権大会 男子団体戦 優勝	5/4
	自動車部	機サ3 石橋 悠人	40名	全日本学生ダートトライアル選手権大会 団体戦第三位入賞	8/3
				全日本学生ジムカーナ選手権大会 団体戦出場	8/24
	射撃部	生環2 原田 雄人	25名	全日本学生ライフル射撃選手権大会 エアライフル10mS60男子団体戦出場	10/25
				全日本女子学生ライフル射撃選手権大会 エアライフル10mS40女子個人戦出場 (建都3 永井 花奈) (デザ2 石川 菜々)	
	卓球部	電情2 綱川 尚希	21名	春季関東大学卓球リーグ戦(女子) 5部優勝	5/30
				秋季関東大学卓球リーグ戦(女子) 5部優勝	10/4
二輪部	電情3 石野 雅也	42名	キャンパスオフロードミーティングR1 キャンパスAクラス (情報4 森ヶ崎 勇太郎) 優勝 SS Killers ノービスB (ロボ3 菅 惇平) 優勝	6/14 11/22	
			バドミントン部	生環3 大川 頌之	62名
千葉県学生バドミントン春季リーグ (男子) Cクラス優勝 Bクラス昇格	7/12				
関東大学バドミントン秋季リーグ (男子) Bクラス優勝 Aクラス昇格 (女子) 五部優勝 (女子) 六部優勝 五部昇格	9/28				
硬式野球同好会	金融4 石橋 好古	57名	千葉県大学野球秋季リーグ戦 二部優勝	11/3	
軟式庭球同好会	情報4 額田 直樹	25名	関東理工科系大学ソフトテニスリーグ戦 三部優勝 二部昇格 関東学生ソフトテニス大会秋季リーグ 十一部優勝 十部昇格	8/9 10/11	
スキューバダイビング愛好会	機サ2 清藤 雅人	50名	関東学生潜水連盟フリッパー競技大会 大学対抗200Mフリッパーリレー サイクロンの部 優勝 騎馬戦の部 優勝	10/11	
よさこいソーラン風神部 (奨励として)	生環3 松岡 翔也	122名	文化の祭典や津田沼祭で、また各種団体からの要請を受け、地域の祭りや老人介護施設等でも演舞を披露。観客65万人を見込んだ「DREAM夜さ来い2015」でMC賞を獲得するなど、大学や地域への貢献が高い。		
文	フィッシャークラブ	電情2 徳田 朋之	37名	全日本学生釣魚連盟関東支部ルアー・フライ大会 個人戦 (機サ4 川崎 勇也) 優勝	11/8
	総合工学研究会	ロボ2 柴田 拓歩	20名	「SHIBA-ONE」二足歩行ロボット競技大会 個人戦 (ロボ2 柴田 拓歩) 優勝	5/31
	美術部	NS2 清水 尚人	20名	池上賞 (web上の公募展で、約100作品の応募の中から受賞) (建都1 加藤 翼) 大賞	8/31
化	茶道部 (奨励として)	NS2 望月 龍	30名	40以上の大学と交流し、1日に複数大学から招待を受けることも。神社仏閣からも招待を受け茶会を行っている。文化の祭典、津田沼祭での茶会は毎年好評を博しており、文化会所属サークルの模範と評価できる。	
	鉄道倶楽部 (奨励として)	電情2 大滝 優	36名	文化の祭典や津田沼祭で、大型鉄道模型に試乗することを楽しみに、多くの方々が来校。幼稚園のバザーや地域の祭りなど、各種団体から要請を受け、精力的に地域貢献を行っていることは評価に値する。	
会	吹奏楽部 (奨励として)	機サ2 黒澤 匠	64名	いきいき津田沼夏まつりや習志野駐屯地夏まつり、老人介護施設などで演奏会を開き、楽しみにされている方々が多い。定期演奏会は今年で26回。千葉県アンサンブルコンテストではクラリネット五重奏銀賞を獲得した。	
	放送研究部 (奨励として)	NS2 阪上 泰孝	74名	NHK全国大学放送コンテスト朗読部門で本選進出 (デザ2 三上 真緒)	
	書道倶楽部 (奨励として)	NS2 桑名 遥輝	18名	全国学生書写書道展で多数入賞。	

(5面から続く)

職員(6人)



高梨 昇(総務部付・事務職員)

がんばれ学生
ありがとう学生たち

おっとりして優しい紳士。時に厳しい指導も愛があつてこそ。ユーモアのセンスも抜群で誰からも慕われていた。



加藤 清澄(総務課・主任)

皆様のあたたかいご指導と協力を得まして充実した11年間で過ごさせていただきありがとうございました。

御礼・感謝

温かい笑顔で朝一番に大学関係者や学生を迎え、安心感を与えてくれる。縁の下の力持ちとは加藤さんのこと。



新井 潔(プロジェクトマネジメント学科・教授)

よい学生にめぐまれました。千葉工大の今後に期待します。

多くの学会で要職を務め、業績も多数。自由な雰囲気の研究室は趣味である自動車の話題などで学生たちと交流。



竹本 篤郎(プロジェクトマネジメント学科准教授)

チャレンジ精神と
問題解決力

穏やかで丁寧な物腰、コンピュータ技術で困ったときには竹本先生! 教育研究と地域貢献で大活躍の半世紀。



大場 みのり(施設課・担当課長)

感謝

なんでも楽しそうにこなし、ものごし柔らかく面倒見の良いお母さんの存在。男性職員から頼りにされていた。



石田 久江(会計課・担当課長)

ありがとう

誰に対しても気さくでらかな笑顔。職員指導には厳しい半面、的確なアドバイスは女子職員から絶大な支持が。



野口 和夫(電気電子情報工学科・准教授)

感謝

学生のみなさんへ大いに経験を積み大学生生活を豊かなものにしてください。

多くの人から信頼され、教員らは兄貴として、学生からは父親のように慕われた。丁寧な学生指導は天下一品。



中村 和彦(機械サイエンス学科・教授)

技術開発を目指すあなたに「何でだす」を忘れずに

*NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」から

教員にとっては面倒見の良い、頼りになる先輩兼お目付け役。厳しさとお優しいのバランスが抜群の教育者。



高橋 勇(総務課・千種校地警備主任)

ありがとうございました。「和」

さりげない笑顔で、周りの誰もを笑顔にしてしまう、みんなのお父さん。最後の年は千種寮の警備に尽力した。



坂口 文夫(施設課・新習志野・技術員)

「耕牛宿食なし、蔵鼠余糧あり」(分をわきまえ日々楽しく送ります)

ぶっきらぼうに見えて、とても情に厚い。頼まれるとトコトン最後まで。的確な判断力で学内の安全に務めた。



平井 成興(未来ロボット技術研究センター副所長)

七年間お世話に成りました。有難うございます。

幅広い教養を持ち国内外の人脈も豊富。難題を前にしても笑顔で飄々とこなす仕事ぶりは研究所内でも憧れの的。



新谷 泰男(教育センター・准教授)

青心及幸

演習室で元気な声を響かせ授業! どんな学生にも気さくに声をかけ、温かい言葉で熱心に指導をしていた。

3月というのに、なかなか春が近づくと喜びを感じられない。来てくれるのは恒例の花粉のみで、ムズムズ、しょぼしょぼのさえない毎日。この切ない毎日を、毎回喜びに変えてくれるのが色々な思い出を残して大学を巣立って行く卒業生達だ。共に入試広報業務に携わってくれた学生スタッフ達、オープンキャンパスやイベントに積極的に参加してくれた自治会の面々。受賞や取材対象として接した学生達。思い起こせば色々な学生達に支えられて1年をすごしている。大勢の学生達と言葉を交わすことで、嬉しいこと、悩んでいること、夢中になれること。キラキラと輝くエピソードは、

編集だより



花粉が多く鼻がムズムズ、目がシパシパする季節の到来です。苦しい反面、そろそろ春がくるな〜♪と嬉しい時期でもあります。春は別れと出会いの季節と良く言いますが、私は4年間お世話になった千葉工大と3月でお別れをします。振り返ると常にバタバタと忙しい日々を送ってまいりました。広報物の作成や入試業務において、経験の浅い私の意見を取り入れてくれるこんなステキな職場で働けたことや、たくさんの方のサポートのおかげで、色んな人に支えられていた私には本当に感謝しています。広報業務の作成や入試業務において、経験の浅い私の意見を取り入れてくれるこんなステキな職場で働けたことや、たくさんの方のサポートのおかげで、色んな人に支えられていた私には本当に感謝しています。広報業務の作成や入試業務において、経験の浅い私の意見を取り入れてくれるこんなステキな職場で働けたことや、たくさんの方のサポートのおかげで、色んな人に支えられていた私には本当に感謝しています。

四季雑感



「聞く」はただ単に音を「きく」ことに対して、「聴く」は知識も活用して注意深く「きく」ことを指します。さらに、積極的に耳を傾けて内容を理解しようとすることを「傾聴」といいます。この「聴く」や「傾聴」の例として、整備士が機械部品などの打音からネジの緩みや亀裂の有無を調べる例や経験を積んだ耳鼻咽喉科医や言語聴覚士が患者の音声を聴くだけで、その原因や治療方法、治療による改善具合を判断する例などがあります。最近、講義を「聴いて」いる学生や「傾聴」する学生に比べて「聞く」だけの学生が多いことを痛感しています。現在、新学期に向けて講義を「聞く」だけでなく、「聴いて」くれる学生、「傾聴」する学生を少しでも増やすための工夫を準備中です。

「聞く」はただ単に音を「きく」ことに対して、「聴く」は知識も活用して注意深く「きく」ことを指します。さらに、積極的に耳を傾けて内容を理解しようとすることを「傾聴」といいます。この「聴く」や「傾聴」の例として、整備士が機械部品などの打音からネジの緩みや亀裂の有無を調べる例や経験を積んだ耳鼻咽喉科医や言語聴覚士が患者の音声を聴くだけで、その原因や治療方法、治療による改善具合を判断する例などがあります。最近、講義を「聴いて」いる学生や「傾聴」する学生に比べて「聞く」だけの学生が多いことを痛感しています。現在、新学期に向けて講義を「聞く」だけでなく、「聴いて」くれる学生、「傾聴」する学生を少しでも増やすための工夫を準備中です。